

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

北海道 江差病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	16	-	ド透未訓	救臨感へ災輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
5,370,807	12,101	非該当	13：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

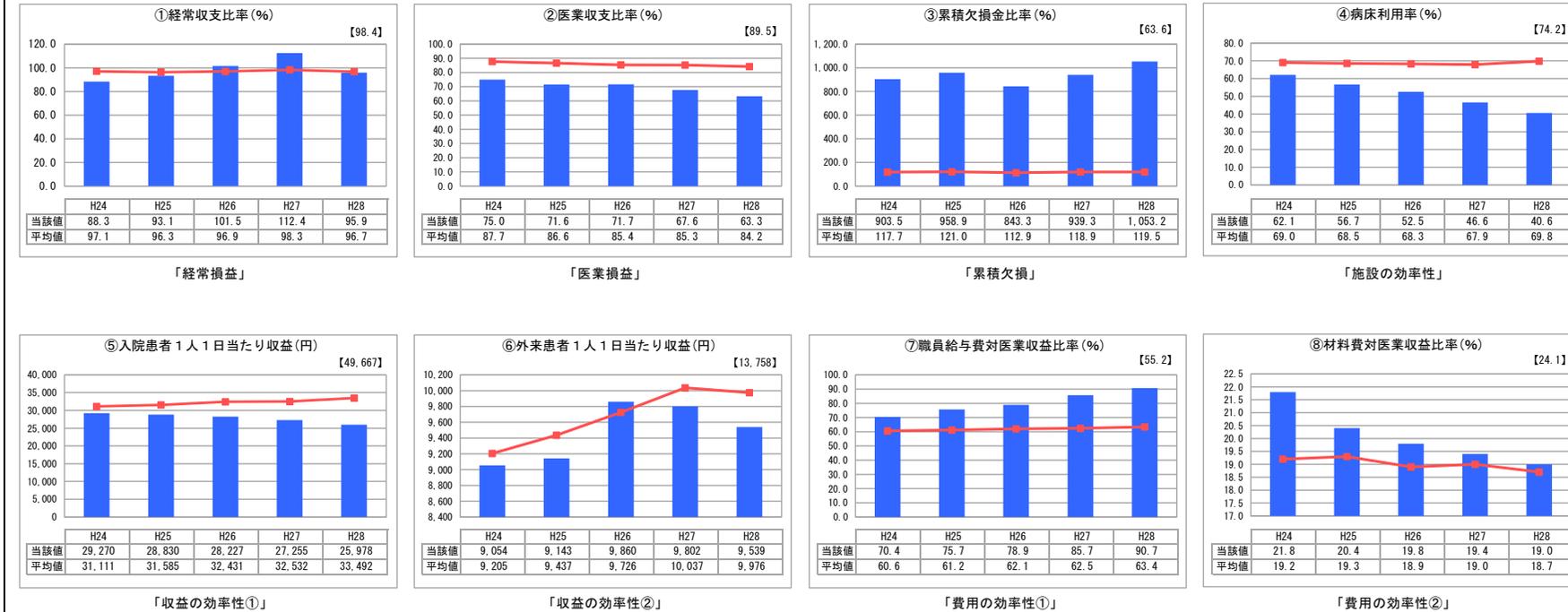
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
146	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
48	4	198
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
112	-	112

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）

【】 平成28年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

## I 地域において担っている役割

南檜山第二次医療圏における地域センター病院として、圏域で唯一の精神医療の提供及び人工透析を実施するとともに、救急医療機関として輪番制に参画していることや、災害拠点病院の指定を受け、災害発生時にはDMAT（災害派遣医療チーム）の派遣体制を整備するなど、救急医療や災害医療の中心的な役割を担っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、平成27年度まで上昇傾向にあったが、平成28年度は患者数の減少による④病床利用率の低下や、⑤入院患者1人1日当たり収益及び⑥外来患者1人1日当たり収益の減少により下落している。

②医業収支比率は、職員給与や材料費が減少したものの、患者数の減少による④病床利用率の低下や、⑤入院患者1人1日当たり収益及び⑥外来患者1人1日当たり収益の減少により下落傾向にある。

③累積欠損金比率は、平成26年度の会計基準見直しに伴い、未処分利益剰余金の計上による累積欠損金の減少により下落したものの、平成27年度以降は純損失の計上に伴う累積欠損金の増加により上昇している。

⑦職員給与対医業収益比率は、職員給与は減少しているものの、患者数の減少などによる医業収益の減少により上昇している。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止により、有形固定資産減価償却累計額が増加し、その後は経年により上昇している。

②器械備品減価償却率は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止により、有形固定資産減価償却累計額が増加したため大幅に上昇したが、平成28年度は高度医療機器の更新により下落している。

③1床当たり有形固定資産は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止により増加したが、その後は下落傾向にある。

## 全体総括

「1. 経営の健全性・効率性」の指標である②医業収支比率、④病床利用率及び⑤入院患者1人1日当たり収益は下落傾向にあることから、診療報酬請求の適正化による医業収益の確保や、圏域内において必要とされる機能の充実を図り、患者数を確保していくことが必要となる。

また、「2. 老朽化の状況」の指標である①有形固定資産減価償却率や②器械備品減価償却率は上昇傾向にあるため、耐用年数を大幅に経過した医療機器等の更新を進めながら、医業収益の確保を図ることが必要となる。

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

北海道 羽幌病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	11	-	ド透訓	救臨へ
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
5,370,807	8,702	第2種該当	10:1	

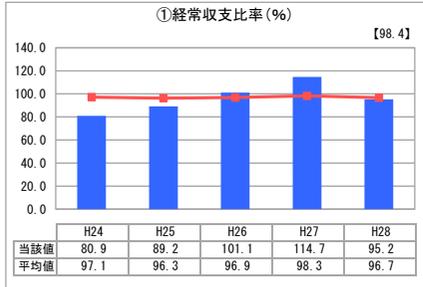
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

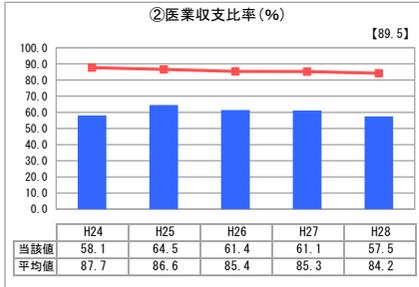
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
120	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	120
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
45	-	45

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 平成28年度全国平均

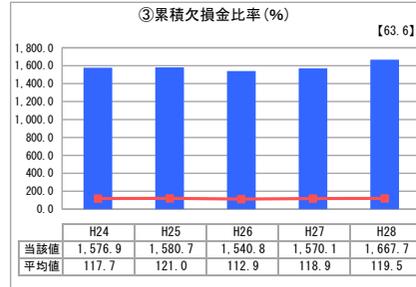
## 1. 経営の健全性・効率性



「経常損益」



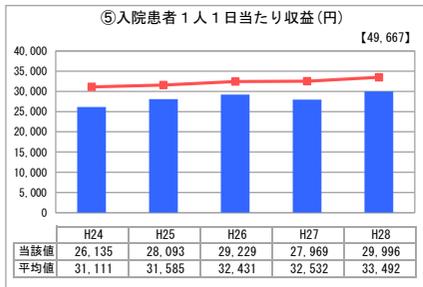
「医業損益」



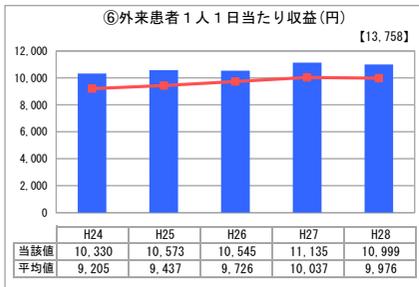
「累積欠損」



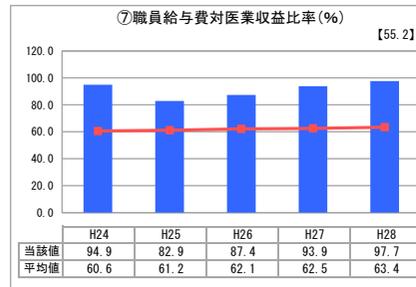
「施設の効率性」



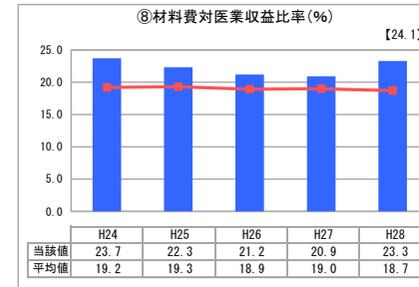
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

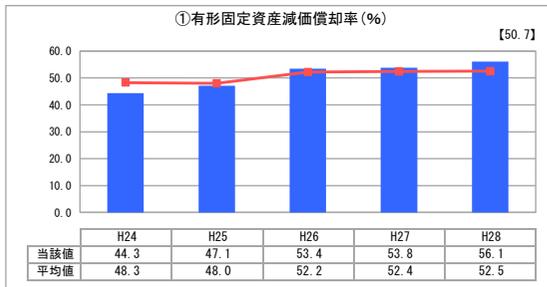


「費用の効率性①」

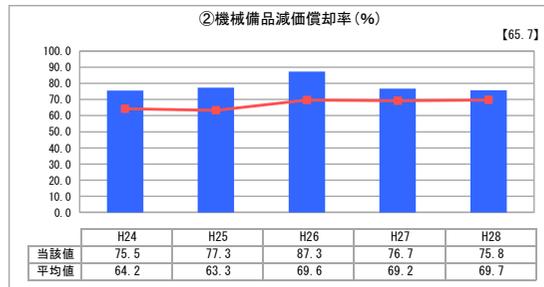


「費用の効率性②」

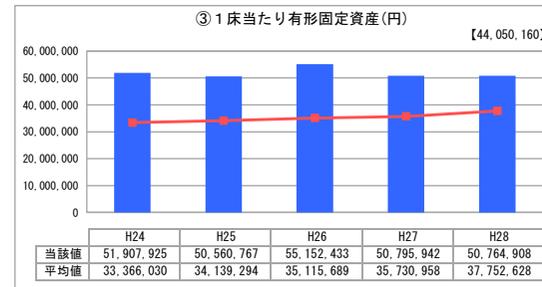
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

留萌第二次医療圏における地域センター病院として、同一圏域のセンター病院や地域の医療機関と連携を図るとともに、人工透析を実施している。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、平成27年度まで上昇傾向にあったが、⑤入院患者1人1日当たり収益は増加しているものの、患者数の減少による④病床利用率の低下や⑥外来患者1人1日当たり収益の減少により下落している。  
②医業収支比率は、職員給与費が減少したものの、患者数の減少による④病床利用率の低下や、⑤入院患者1人1日当たり収益の減少により下落傾向にある。

③累積欠損比率は、平成26年度の会計基準見直しに伴い、未処分利益剰余金の計上による累積欠損金の減少により下落したものの、平成27年度以降は純損失の計上に伴う累積欠損金の増加により上昇している。

⑦職員給与費対医業収益比率は、職員給与費は減少したものの、患者数の減少などによる医業収益の減少により上昇している。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止により、有形固定資産減価償却累計額が増加し、その後は経年により上昇している。

②器械備品減価償却率は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止により、有形固定資産減価償却累計額は増加したが、その後は下落している。

③1床当たり有形固定資産は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止により増加したが、その後は下落傾向で推移している。

### 全体総括

「1. 経営の健全性・効率性」の指標である②医業収支比率、④病床利用率は下落傾向にあることから、診療報酬請求の適正化による医業収益の確保や、圏域内において必要とされる機能の充実を図り、患者数を確保していくとともに、⑧材料費対医業収益比率は増加傾向にあるため、効率的な使用を図ることが必要となる。

また、「2. 老朽化の状況」の指標である①有形固定資産減価償却率は上昇傾向にあり、②器械備品減価償却率は平均値を上回っているため、耐用年数を大幅に経過した医療機器等の更新を進めながら、医業収益の確保を図ることが必要となる。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

北海道 緑ヶ丘病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	精神科病院	精神病院	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	1	-	-	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
5,370,807	13,670	非該当	15:1	

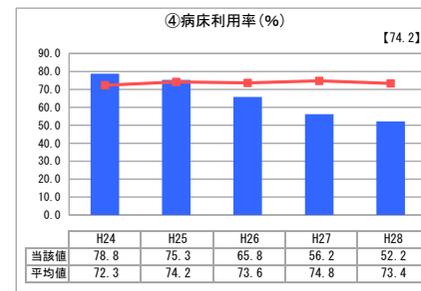
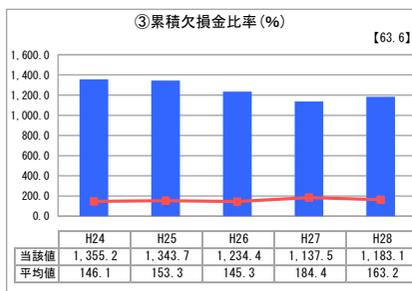
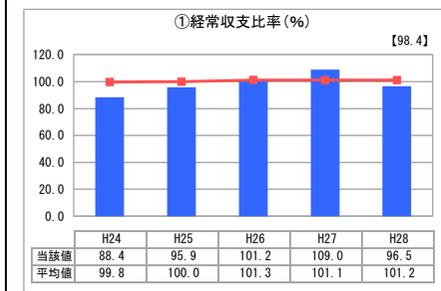
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
168	-	168
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	-	-

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
[ ]	平成28年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性

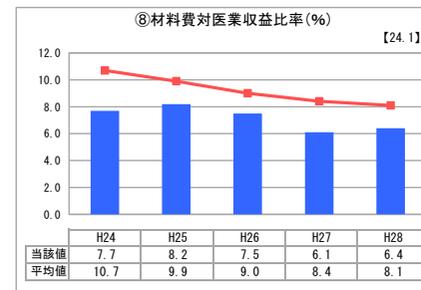
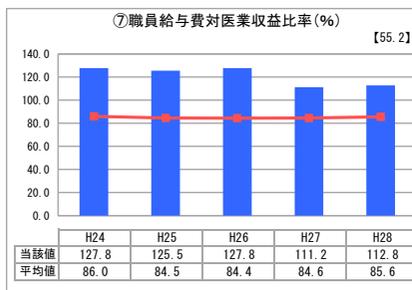
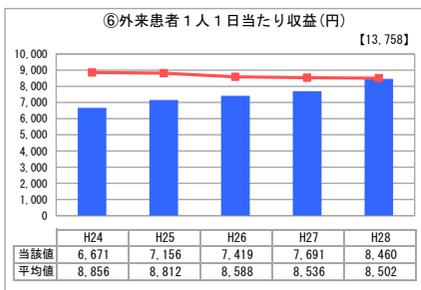
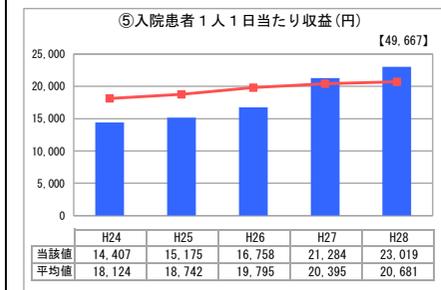


「経常損益」

「医業損益」

「累積欠損」

「施設の効率性」



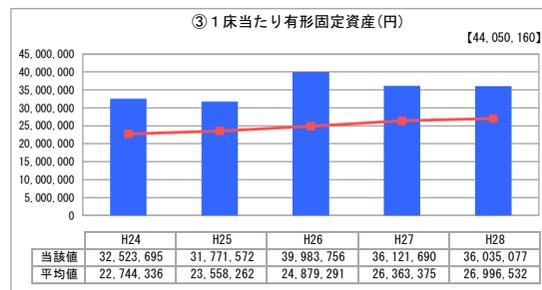
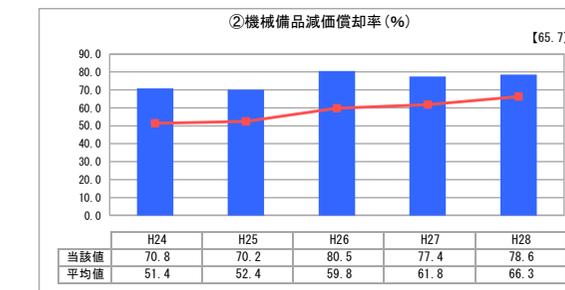
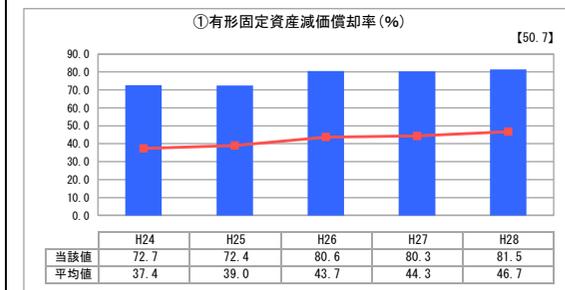
「収益の効率性①」

「収益の効率性②」

「費用の効率性①」

「費用の効率性②」

## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」

「機械備品の減価償却の状況」

「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

十勝第三次医療圏における精神科救急及び急性期医療の病院として、平成27年3月から精神科救急入院料病棟の運用を開始し、入院後の早期の地域生活への移行や、退院後の訪問看護等による在宅支援、圏域で唯一となる児童・思春期精神科医療の専門外来や専用病床を有するなど、圏域における中心的な役割を担っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、平成27年度まで上昇傾向にあったが、平成28年度は⑤入院患者1人1日当たり収益及び⑥外来患者1人1日当たり収益は増加したものの、地域生活への移行に伴う患者数の減少による④病床利用率の低下により下落している。  
 ②医業収支比率は、地域生活への移行に伴う患者数の減少により④病床利用率は低下したものの、平成27年度から精神科救急を実施したことにより、⑤入院患者1人1日当たり収益が増加し、平成27年度以降は同水準で推移している。  
 ③累積欠損比率は、平成27年度まで下落傾向にあったが、平成28年度は純損失の計上に伴う累積欠損金の増加により上昇している。  
 ⑦職員給与対医業収益比率は、職員給与の減少や精神科救急の実施による医業収益の増加により、平成27年度以降は下落傾向で推移している。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止により、有形固定資産減価償却累計額が増加し、その後も上昇している。  
 ②器械備品減価償却率は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止により、有形固定資産減価償却累計額は増加したが、その後は下落傾向にある。  
 ③1床当たり有形固定資産は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止により増加したが、その後は下落傾向にある。

### 全体総括

「1. 経営の健全性・効率性」の指標である②医業収支比率は、平成27年度以降は上昇傾向にあるが、④病床利用率は下落傾向にあることから、圏域内において必要とされる機能の充実を図り、患者数を確保していくことが必要となる。  
 また、「2. 老朽化の状況」の指標である①有形固定資産減価償却率や②器械備品減価償却率は上昇傾向にあるため、耐用年数を踏まえながら、大幅に経過した医療機器等の更新を進めるとともに、患者ニーズに対応した療養環境を整備しながら医業収益の確保を図ることが必要となる。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

北海道 向陽ヶ丘病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	精神科病院	精神病院	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	2	-	-	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
5,370,807	7,074	非該当	15：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

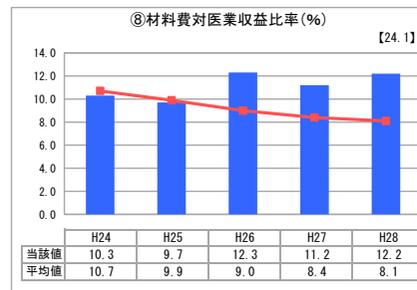
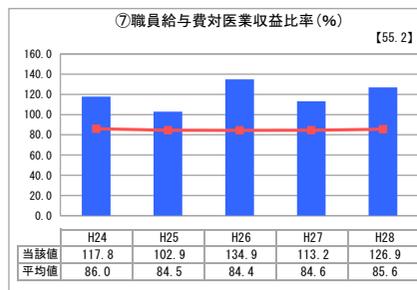
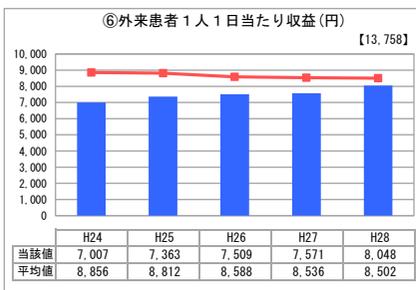
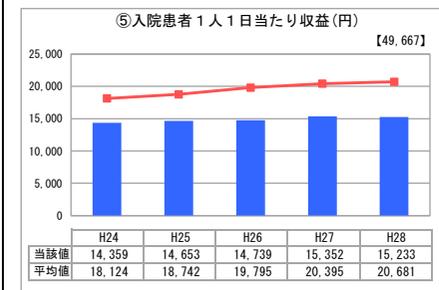
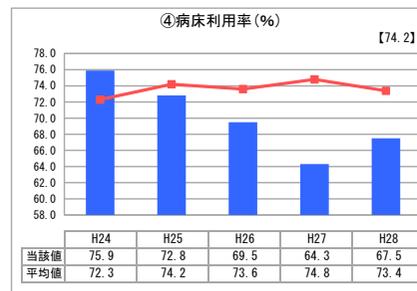
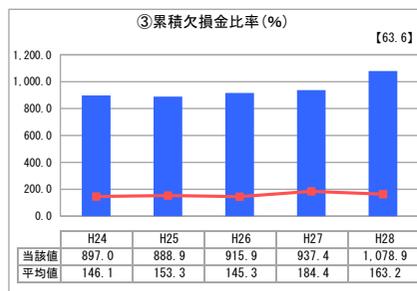
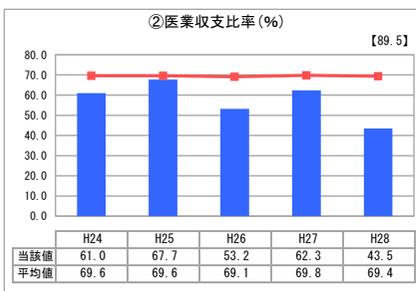
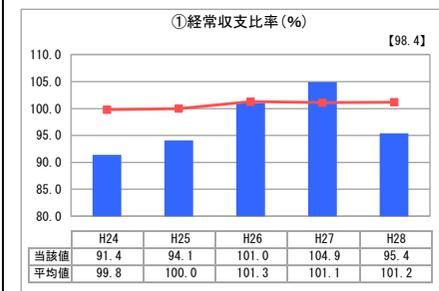
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
105	-	105
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	-	-

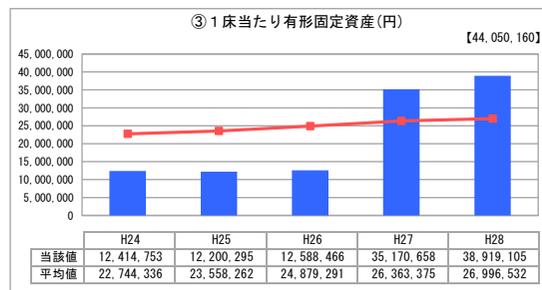
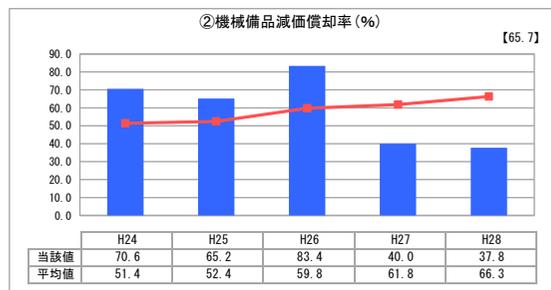
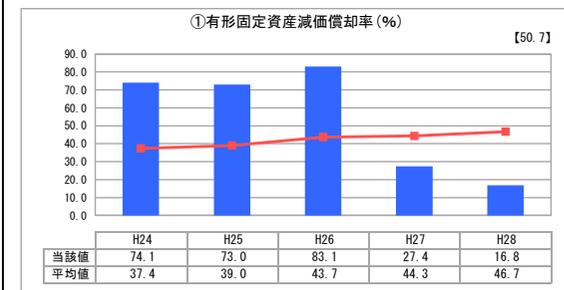
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## I 地域において担っている役割

オホーツク第三次医療圏における精神科救急及び急性期医療の病院として、入院後の早期の地域生活への移行や、退院後の訪問看護等による在宅支援、平成26年度に開設した認知症疾患医療センターによる専門医療などにより、圏域における中心的な役割を担っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、平成27年度まで上昇傾向にあったが、平成28年度に運営を開始した新病院への移転経費や、地域生活への移行に伴う患者数の減少により下落している。  
 ②医業収支比率は、上昇及び下降を繰り返しているが、平成28年度は新病院への移転経費や、地域生活への移行に伴う患者数の減少により下落している。  
 ③累積欠損金比率は、平成26年度の会計基準見直しに伴う未処分利益剰余金を計上したが、その後も上昇している。  
 ④病床利用率は、平成28年度は患者数は減少したものの、病院新築に伴う許可病床数の減床により上昇している。  
 ⑦職員給与費対医業収益比率は、上昇及び下降を繰り返しているが、平成28年度は職員給与費が減少したものの、患者数の減少による医業収益の減少により上昇している。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止により、有形固定資産減価償却累計額は増加したが、平成27年度以降は病院新築に伴う固定資産の計上により、大幅に下落している。  
 ②器械備品減価償却率は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止により、有形固定資産減価償却累計額は増加したが、平成27年度以降は病院新築に伴う医療機器購入等により、大幅に下落している。  
 ③1床当たり有形固定資産は、平成26年度まで低水準で推移していたが、平成27年度以降は病院新築に伴い、許可病床数を減床したことや、医療機器等を購入したことにより大幅に増加している。

## 全体総括

「1. 経営の健全性・効率性」の指標である⑤入院患者1人1日当たり収益及び⑥外来患者1人1日当たり収益は増加傾向にあるものの、②医業収支比率及び④病床利用率は下落傾向にあることから、診療報酬請求の適正化による医業収益の確保や、圏域内において必要とされる機能の充実を図り、患者数を確保していくことが必要となる。

また、「2. 老朽化の状況」の指標である①有形固定資産減価償却率や②器械備品減価償却率は、平成27年度に病院を新築していることから下落しており、更なる患者ニーズに対応しながら医業収益の確保を図ることが必要となる。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

北海道 北見病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	6	-	透	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
5,370,807	5,378	非該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

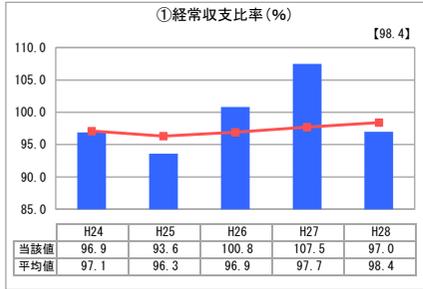
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
70	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	70
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
70	-	70

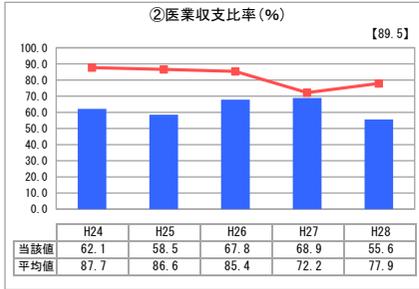
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- [ ] 平成28年度全国平均

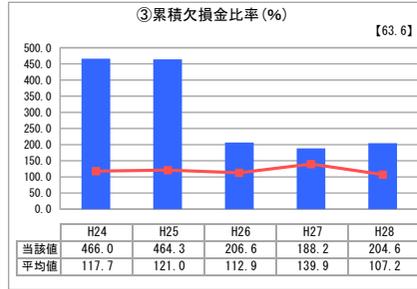
## 1. 経営の健全性・効率性



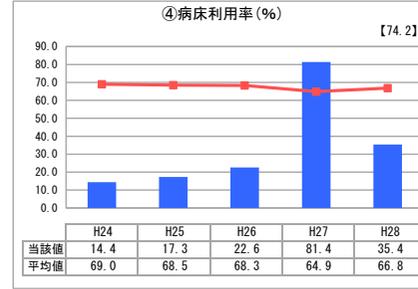
「経常損益」



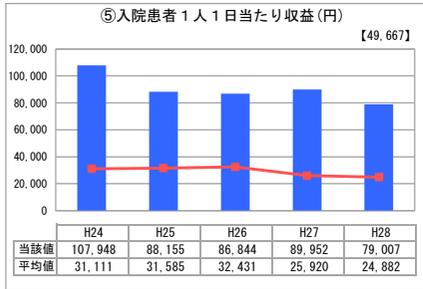
「医業損益」



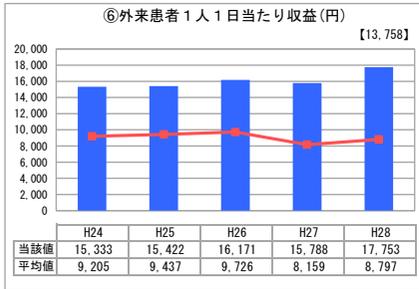
「累積欠損」



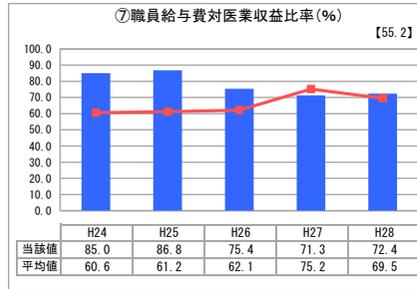
「施設の効率性」



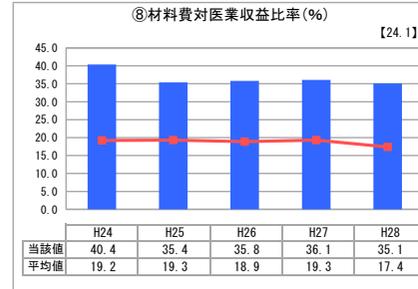
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

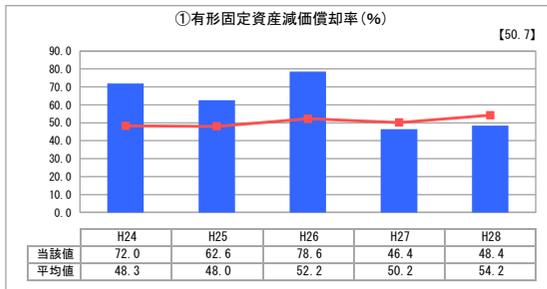


「費用の効率性①」

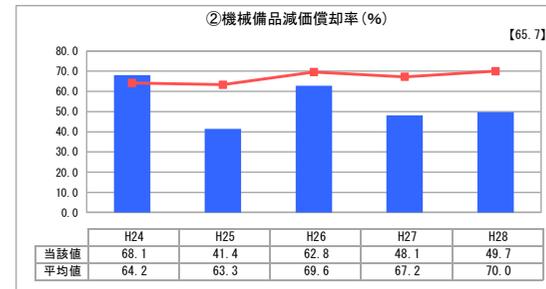


「費用の効率性②」

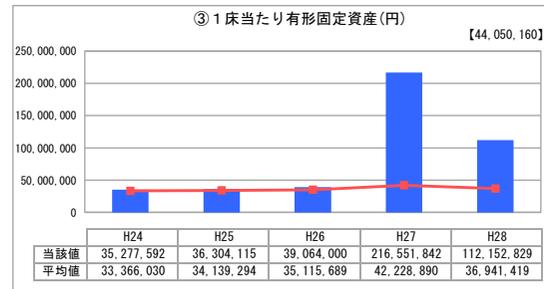
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

オホーツク第三次医療圏で唯一、心臓血管外科手術を実施するなど、圏域における循環器・呼吸器疾患の高度・専門医療の中心的な役割を担っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率及び②医業収支比率は、平成27年度まで上昇傾向にあったが、平成28年度は患者数が増加したものの、⑤入院患者1人1日当たり収益の減少による医業収益が減少し下落している。  
③累積欠損金比率は、平成26年度の上昇基準見直しに伴い、未処分利益剰余金の計上による累積欠損金の減少において下落し、その後は同水準で推移している。  
④病床利用率は、平均値と比較して低水準で推移しているが、上昇傾向で推移しており、病院新築に伴う平成28年度の許可病床数の減床により、上昇幅が拡大している。  
⑦職員給与費対医業収益比率は、平成27年度以降は職員給与費の減少や、入院患者数の減少などによる医業収益の減少により下落傾向にある。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止により、有形固定資産減価償却累計額は増加したが、平成27年度以降は、病院新築に伴う固定資産の計上により大幅に下落している。  
②器械備品減価償却率は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止により、有形固定資産減価償却累計額は増加したが、平成27年度以降は、病院新築に伴う医療機器購入等により下落している。  
③1床当たり有形固定資産は、平成26年度までは低位で推移していたが、平成27年度以降は病院新築に伴い、許可病床数を減床したことや、新築に伴う医療機器購入等により、大幅に上昇している。

### 全体総括

「1. 経営の健全性・効率性」の指標である④病床利用率は低水準ながら上昇傾向にあるものの、②医業収支比率は下落傾向にあることから、診療報酬請求の適正化による医業収益の確保や、圏域内の隣接する医療機関と連携を強化しながら患者数を確保していくことが必要となる。  
また、「2. 老朽化の状況」の指標である①有形固定資産減価償却率や②器械備品減価償却率は、平成27年度に病院を新築していることから、更なる患者ニーズに対応しながら医業収益の確保を図ることが必要となる。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

北海道 子ども総合医療・療育センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	16	-	I 未訓 方	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
5,370,807	18,116	非該当	10 : 1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン（放射線）診療

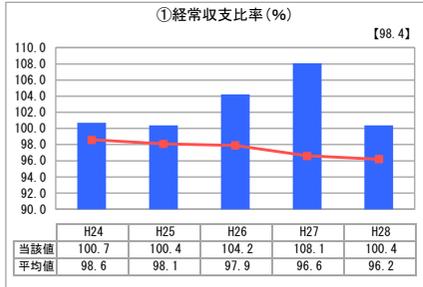
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
215	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	215
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
209	-	209

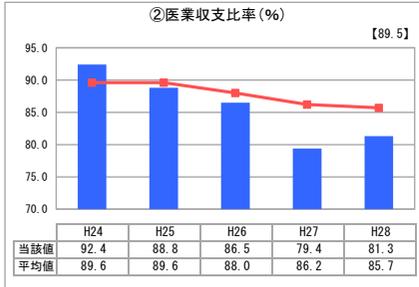
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- [ ] 平成28年度全国平均

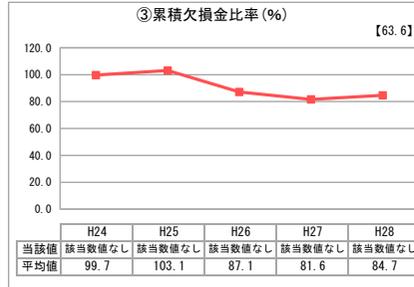
## 1. 経営の健全性・効率性



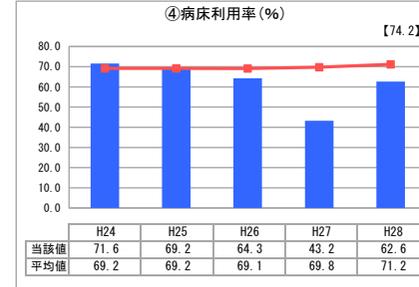
「経常損益」



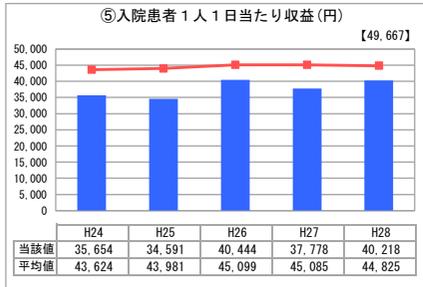
「医業損益」



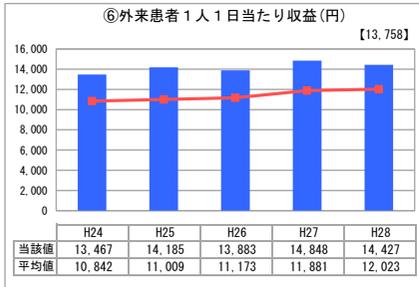
「累積欠損」



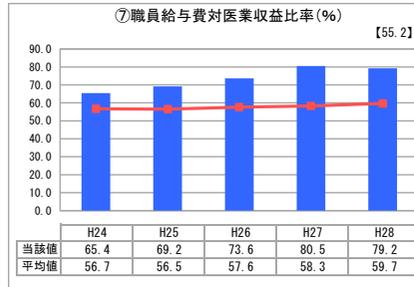
「施設の効率性」



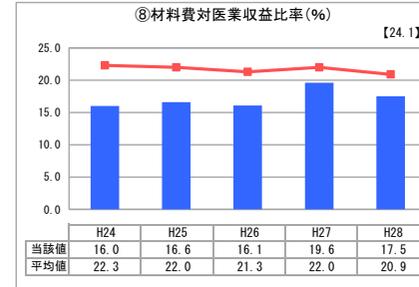
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

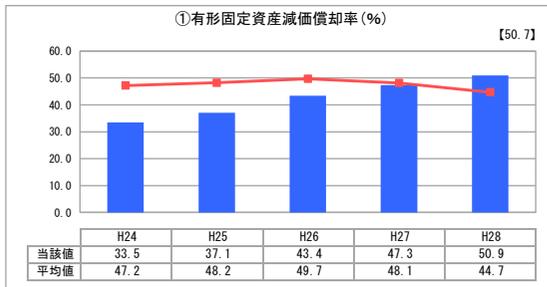


「費用の効率性①」

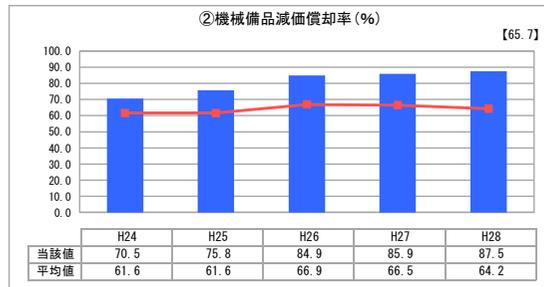


「費用の効率性②」

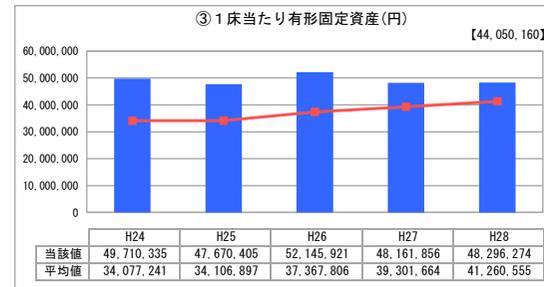
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

北海道全域を圏域としており、ハイリスクの胎児や新生児に対する特殊な周産期医療を提供する特定機能周産期母子医療センター機能、先天性心疾患等への高度医療を提供する循環器病センター機能、療育リハビリテーション等を提供する総合発達支援センター機能を有しており、医療部門と療育部門が連携した複合的な役割を担っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、平成27年度まで上昇傾向にあったが、平成28年度は患者数の減少による④病床利用率の低下や、⑥外来患者1人1日当たり収益の減少などにより下落している。  
 ②医業収支比率は、患者数の減少による④病床利用率の低下や、職員給与費と材料費の増加により下落傾向にある。  
 ⑦職員給与対医業収益比率は、職員給与費が増加傾向にあり、患者数の減少による医業収益の減少により上昇している。  
 ⑧材料費対医業収益比率は、平成27年度に高度な手術件数の増加により上昇したが、平成28年度は下落している。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止による影響はなかったことから、経年により上昇している。  
 ②器械備品減価償却率は、平成26年度の会計基準の見直しに伴うみなし償却制度の廃止による影響はなかったことから、経年により上昇している。  
 ③1床当たり有形固定資産は、センター開設後の大規模修繕や高度医療機器の更新はないことから、同水準で推移している。

### 全体総括

「1. 経営の健全性・効率性」の指標である②医業収支比率、④病床利用率は下落傾向にあることから、診療報酬請求の適正化による医業収益の確保や、患者ニーズに対応する体制整備を進めながら患者数を確保していくことが必要となる。  
 また、「2. 老朽化の状況」の指標である①有形固定資産減価償却率や②器械備品減価償却率は上昇傾向にあるため、耐用年数を大幅に経過した医療機器等の更新を進めながら、医業収益の確保を図ることが必要となる。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。